

管内信用金庫の平成31年3月期決算の概要

1. 損益の状況

- コア業務純益は、資金利益の減益等により、30年3月期に比べ▲1.0%の減益。
- 当期純利益は、債券等関係損益が増益となったものの、与信関係費用の増加や株式等関係損益の減益等により、30年3月期に比べ▲9.2%の減益。

(単位：億円)

	29年3月期	30年3月期	31年3月期	前期比	増減率
業務粗利益	3,302	3,173	3,086	▲87	▲2.7%
資金利益	2,915	2,877	2,772	▲104	▲3.6%
役務取引等利益	155	143	146	3	2.5%
債券等関係損益	187	112	141	29	25.9%
経費(▲)	▲2,631	▲2,603	▲2,492	111	4.2%
コア業務純益	483	457	453	▲4	▲1.0%
与信関係費用(▲)	▲75	▲23	▲80	▲57	▲239.6%
株式等関係損益	84	136	77	▲59	▲43.5%
当期純利益	493	497	451	▲45	▲9.2%

(参考)

	29年3月期	30年3月期	31年3月期
預金等(末残)	29.3兆円	30.0兆円	30.6兆円
貸出金(末残)	14.3兆円	14.6兆円	14.7兆円

預金等：預金＋譲渡性預金

2. 不良債権の状況

- 不良債権額は30年3月期に比べ減少。不良債権比率も0.31ポイント低下。

	29年3月期	30年3月期	31年3月期
不良債権額	6,924億円	6,215億円	5,797億円
不良債権比率	4.79%	4.22%	3.91%

3. 自己資本比率の状況

- 30年3月期に比べ0.35ポイント低下。

	29年3月期	30年3月期	31年3月期
自己資本比率	14.59%	14.26%	13.91%

(注1) 集計対象は、平成29年3月期及び30年3月期が38信用金庫、31年3月期が36信用金庫(計数は単体ベース)。

(注2) 経費、与信関係費用について、正の値は益を、負の値は損を表す。

(注3) 前期比、増減率は、正の値が利益の押上げを、負の値が利益の押下げを表す。

(注4) 計数は単位未満を切り捨てて表示しているため、前期比、増減率の計数が計算と一致していない場合がある。

(注5) 各金庫からの報告計数を集計したものであるが、暫定の集計値に基づくものであり、今後変動があり得る。

(注6) 平成31年3月期の損益、各種利回り等は、平成30年度中に合併した浜松磐田信用金庫、桑名三重信用金庫のうち、手続上解散した旧磐田信用金庫、旧三重信用金庫が決算を清算しているため、解散・清算までの計数は含んでいない(以下、同様)。



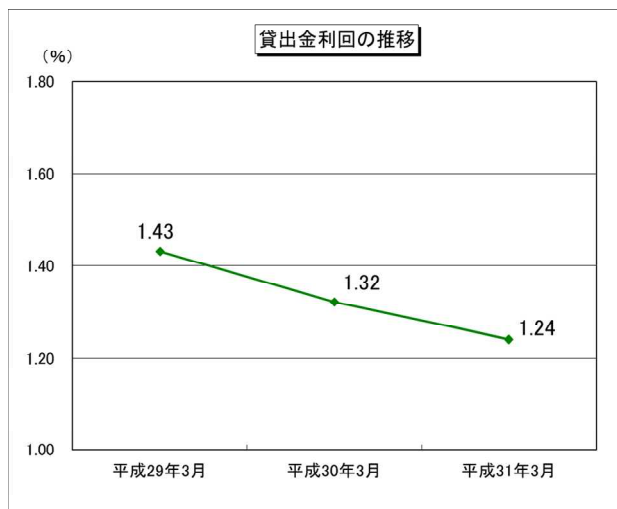
【お問合せ先】

財務省 東海財務局 金融監督第二課

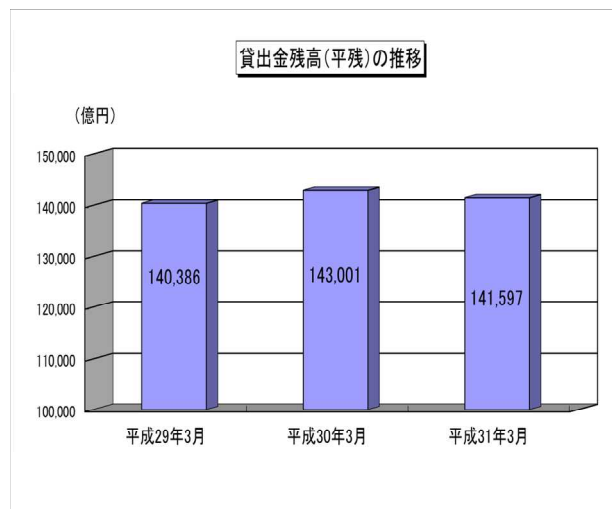
TEL：(052) 951-1774

貸出金利回及び残高の状況

貸出金利回の推移



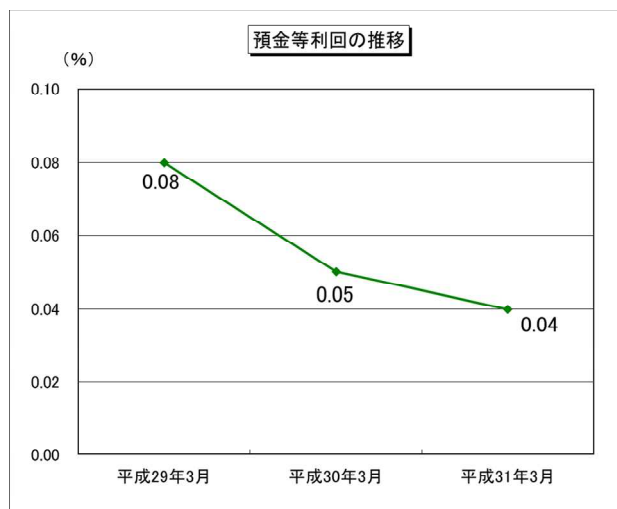
貸出金残高(平残)の推移



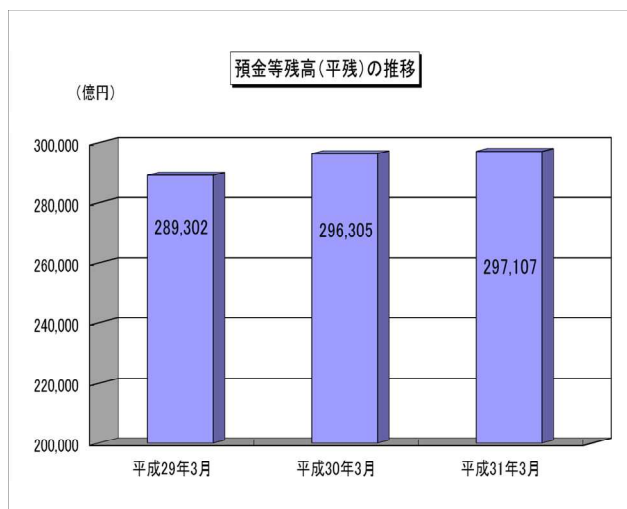
(注) 貸出金利回 (%) = (貸付金利息 + 手形割引料) ÷ 貸出金(平残) × 100

預金等利回及び残高の状況

預金等利回の推移



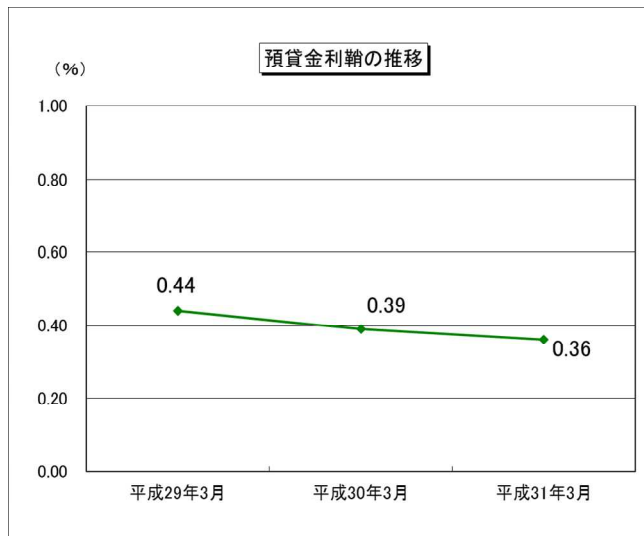
預金等残高(平残)の推移



(注) 預金等 = 預金 + 譲渡性預金
 預金等利回 (%) = (預金利息 + 譲渡性預金利息) ÷ 預金等(平残) × 100

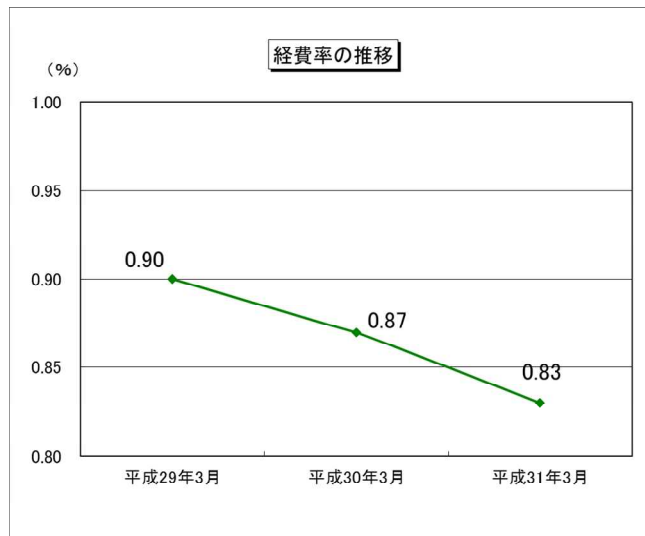
預貸金利鞘及び経費率の状況

預貸金利鞘の推移



(注) 預貸金利鞘 (%) = 貸出金利回 (%) - 預金債権等原価 (%)
 預金債権等原価 (%) = (預金等利息 + 経費) ÷ 預金等 (平残) × 100

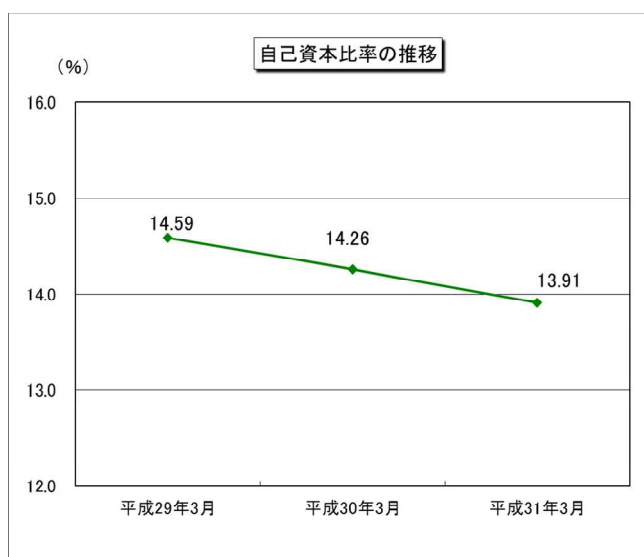
経費率の推移



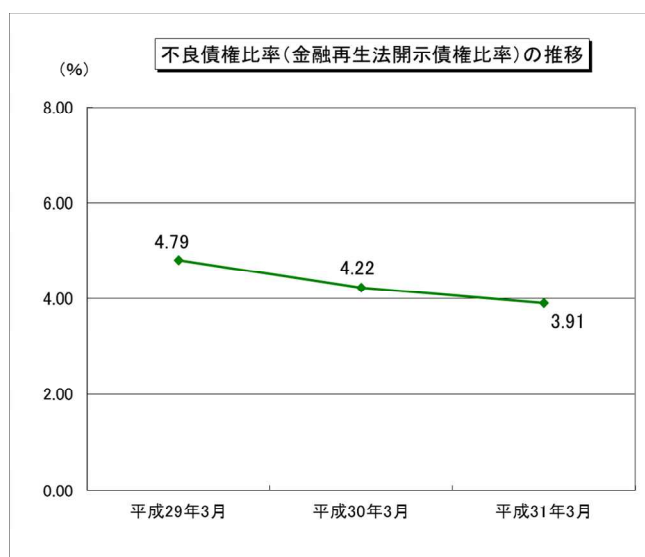
(注) 経費率 (%) = 経費 ÷ 預金等 (平残) × 100

自己資本比率及び不良債権比率の状況

自己資本比率の推移



不良債権比率の推移



※ 各計数は、各金融機関からの報告計数(単体ベース)を集計したものであるが、暫定の集計値に基づくものであり、今後変動があり得る。
 ※ 各計数の比率は加重平均。端数整理は、単位未満切捨てで処理。端数整理後の計数により計算している項目もある。